

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果(深谷中学校)

平均正答率

自校の平均正答率と県の平均正答率との比較

	国語	算数・数学
深谷中	下回った	下回った
埼玉県	59	53
全国	58.1	52.5

児童生徒質問紙調査の結果と分析

※質問事項は質問紙調査より抜粋したもの

※「している」「どちらかといえばしている」を合わせた値(単位 %)

	質問事項	深谷中	埼玉県	全国
生活習慣	朝食を毎日食べている	94	92	91
	毎日、同じくらいの時刻に寝ている	85	81	81
	毎日、同じくらいの時刻に起きている	92	93	93
	新聞を読んでいる(週に1回程度以上)	6	6	7
学習習慣	タブレットを活用し、自分のペースで理解し学習を進めた	86	80	80
	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている	87	82	78
	昨年度までに受けた授業で、課題解決に向け、自分で考え、自分で取り組んでいた	82	84	80
	学校の授業時間以外に、平日、1日当たり1時間以上勉強をしている(学習塾等で勉強している時間も含む)	86	79	79
教科への関心	国語の勉強は好きだ	78	64	64
	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	94	91	91
	算数の勉強は好きだ	66	57	57
	算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	85	78	79
	理科の勉強は好きだ	85	68	68
	理科の授業では、自分の予想をもとに実験・観察の計画を立てているか	88	76	72
主体的・対話的な学び	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	82	84	80
	授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた	69	72	65
	授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた	77	80	75
	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができた	90	89	86
その他	自分には、よいところがあると思う	81	85	85
	将来の夢や目標をもっている	75	68	66
	人の役に立つ人間になりたいと思う	97	95	95
	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思うか	84	75	76

深谷中公表

【質問紙分析】

- ・「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思うか」という項目で、全国・県を上回る高い数値となっている。これは、深谷小学校での「ふるさと教育」の取り組みの上に、深谷中学校での「ふるさと教育」の取り組みの成果がでているからであると考えられる。
- ・「将来の夢や目標をもっている」という項目で、全国・県を上回る高い数値となっている。これは、学校行事として「志高の会」やドトールコーヒーマスターの鳥羽会長をお呼びしての講演会、学級・学年のキャリア教育が充実しているからであると考えられる。
- ・教科への関心の部分で、「国語・数学・理科の勉強が好きだ」という項目がすべてにおいて、全国・県を上回っている。これは、各教科担当が、教材研究を十分に行い、誰にでもわかる授業の実践を行っているからである。

全国の平均正答率と比較して大きく上回った問題○と課題のある問題●とその理由

【国語】

○2ー

文章と図を結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈する問題の正答率が40.5%と高かった。実際の葉の形を想起したり、葉の形とそれを表す言葉と結びつけたりする際に、それを助ける役割をもつことを捉えることができた。

○3四

表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるかどうかをみる問題の正答率が52.9%と高かった。スピーチの授業や作文の授業、ワークシートの工夫を行うことで、思考力・表現力が身に付いたと言える。

○4二

短歌の内容について、描写を基に捉えることができるかどうかをみるという問題の正答率が50.4%と高かった。短歌の学習を行う際に、友達に紹介する授業を行い、短歌を、観点を定めて捉え直す場面を設けた。

●3ー

目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみるという問題の正答率が、全国・県に比べて低かった。日常生活から、題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にする授業を行うようにし、表現力を向上させるように意識する。

●4三

行書の特徴を理解しているかどうかをみるという問題であった。漢字の行書の基礎的な書き方を理解させ、身近な文字を行書で書く授業を行う。

【数学】

○6(1)

問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができるかどうかをみるという問題で、正答率が91.7%であった。四則計算に関する基礎的・基本的な知識が身に付いている。身に付くまで繰り返し小テストを授業中に実施したり、宿題を出し、確認作業を丁寧に行ったことが成果として表れた。

深谷中公表

○8 (1)

二つのグラフにおけるy軸との交点について、事象に即して解釈することができるかどうかを問う問題で、正答率が86.7%であった。一次関数に関する基本的な知識が身に付いている。日頃の授業の中で、関数関係にある事象を取り上げ、本問のような問題に取り組みさせることを行った成果として表れた。

●6 (3)

総合的・発展的に考え、成り立つ事象を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかを問うという問題である。授業において、数に関する事象を考察する場面を設け、自力解決だけでなく、ペア学習やグループ学習を取り入れ、思考力・表現力・表現力等を向上させるような取り組みを行うことが必要である。

●7 (3)

複数の集団データの分布から、四分位範囲を比較することができるかどうかを問うという問題である。四分位範囲や箱ひげ図の特徴について理解が、不十分であったといえる。小テストや宿題を通して、基礎的・基本的な知識の定着を図っていく。

課題への取組・改善策

【国語】

・ 説明的な文章を読む場面において、次のことを特に意識させる。文と図を結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈するように指導する。説明的な文章については、図表や写真を含むものを取り上げる必要がある。

・ 短歌を紹介するための資料を作る場面において、比喩・反復・倒置・体言止めなど表現の技法を理解させることと、短歌を作成し、学習した表現の技法を活用することが必要である。

・ 行書の特徴を理解させる。その際に、漢字の行書の基礎的な書き方を理解して、身近な文字を行書で書くなどし、授業を行っていく。

【算数・数学】

・ 引き続き基礎的・基本的な知識の確実な定着を目指していく。正の数、負の数の加法と減法の計算は、正答率100%を目指し、できるまで繰り返し取り組む。

・ 具体的な数字から、文字を用いて一般化し、数量及び数量の関係を捉え、説明する場面を設ける。文字式になると、正答率が低下してしまうので、文字式に慣れさせることも大切な作業である。

・ 事象を数学的に考察する場面において、数学的な表現を用いて説明することを苦手としている生徒が多いので、自力解決→解説の流れではなく、ペア学習やグループ学習を適宜入れ、思考が深まる授業を行っていく。

・ 長い問題文の中から必要な情報を取りだし、処理するという問題形式や見慣れない問題に対して、取り組みにくくなっていることが考えられるので、調査問題を活用した授業そして、調査問題に類する小テストや定期テスト問題を実施することで、問題へ慣れさせ、教師側にとっても必要とされる資質・能力が分かり、生徒の育成を行うことができ

深谷中公表

る。

【質問紙等】

- ・ 質問紙において、教科の関心に関する問は、国語及び数学で、高水準を挙げているので引き続き維持できるよう、教科担当は、今行っている取り組みを継続していく。良好な学級経営に加え、主体的・対話的で深い学びの実践が、学力向上につながるといわれているので、授業改善と学級経営力向上の両輪で、学力向上を図っていきたい。
- ・ 調査問題を、担当教科で分析することはもちろんのこと、求められる資質・能力について、全職員で把握する必要があるので、職員で、全国学調の課題のある問題を解く作業を行う等行っていきたい。